健康いちばん

中標津町保健センター 健康推進課 健康推進係

3月は自殺対策強化月間です

令和7年度 中標津町生きるを支える自殺対策行動計画事業について

全国の自殺者数は年間２万人を超えており、深刻な状況が続いています。中標津町の自殺死亡率は、その年によりばらつきが見られますが、全国や北海道を上回る状況です。

町では、令和６年３月に「第２次中標津町生きるを支える自殺対策行動計画（計画期間：令和６年度～令和10年度）」を策定し、誰も自殺に追い込まれることのない中標津町の実現に向け、さまざまな取り組みを行なっています。

北海道医療大学との包括的連携に関する協定を締結しました

令和７年８月27日に、中標津町と北海道医療大学との包括的連携に関する協定を締結しました。この協定は、包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することを目的として、

①保健、医療および福祉の向上に関すること
②地域活性化に関すること
③地域支援に関すること
④地域人材の育成に関すること
⑤産業、学術および文化の振興に関すること
⑥教育・研究に関すること
⑦その他、前条の目的を達成するために必要と認められる事項

について連携して取り組むこととしています。

写真：西村町長（左）と北海道医療大学三國学長（右）

ゲートキーパー養成講座・生きるを支える自殺予防講演会を開催しました

この包括的連携協定に基づき、令和７年11月15日に北海道医療大学心理科学部長　冨家直明（とみいえただあき）教授をお招きし、自殺対策を支える人材の育成を目的とした「ゲートキーパー養成講座」と、町民一人ひとりが自殺対策への関心を高め、理解を深めるために「生きるを支える自殺予防講演会」を中標津経済センターなかまっぷで開催しました。

ゲートキーパーは「命の門番」と呼ばれ、自殺の危険性がある人に気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る人のことをいいます。養成講座には30名の参加があり、町職員とのロールプレイも交えながら、傾聴技法等について分かりやすく学ぶことができました。

写真：冨家直明教授

自殺予防講演会では、「支え合おうこころといのち～大切な人に寄り添うために～」をテーマにご講演をいただき、32名の参加がありました。参加者からは、「ソーシャルサポートの重要性を理解できました。」「自分にできることは何か考え実践していければと思う。」等といった感想をいただきました。

町では引き続き北海道医療大学と連携して、町民一人ひとりの大切な命を守るため自殺対策行動計画の推進に努めてまいります。

問い合わせは、中標津町保健センター（TEL72-2733）まで。